

取材先	下関図書館友の会		
企画名	「図書館の写真パネル展」		
取材日	2021年11月29日(月)天候[晴れ] [13:45~15:00]	取材地	下関市立中央図書館

レポート

下関図書館友の会は、市内に在る図書館が広く市民に開かれ、利用され、居心地の良い場所となることを願い、講演会の開催や各地の図書館見学、会員同士の情報交換や会報の発行などを行っています。また、市などに対して「要望書」を提出するなど、市民の声を市や図書館に届ける活動をされています。

今回は、11月27日から下関市立中央図書館で開催されている「地域に育つ 暮らしの中の図書館」をテーマとした「図書館の写真パネル展」を取材させていただきました。

展示されている写真パネルは、写真家 漆原 宏（うるしばら・ひろし）さんが、40年にわたり、各地の図書館の風景をカメラのファインダー越しに見つめ続けた約3万6千点もの写真の中から、「図書館の熱気のようなものを感じてもらえたら嬉しい」と推す一冊目の写真集に掲載されているものだそうです。

まさにその通り「図書館の熱気」が感じられる写真の数々が展示されていて、少し懐かしい図書館の風景から、子どもたちの豊かな表情を切り取った写真など、図書館が、子どもたちからお年寄りまで、障害のある方から病院に入院されている方にまで、必要とされ、地域に愛されている様子が伝わってきました。

取材当日は、児玉教育長も見て回られ、また、中央図書館の職員の方々が、会場のレイアウトを見やすいように動かされている姿から、下関図書館友の会と市や図書館との良い関係性が見て取れました。

そして、会場の一角には、会の方がアルバム状にファイルされた写真があり、その中には、懐かしい下関の中央図書館や長府図書館の写真もありました。

最後に、下関図書館友の会の田口代表にとって、図書館とはどんな存在かをお聞きしたところ「私を支えてくれる場所」という答えが返ってきました。皆さんも、心が疲れた時など、癒されに図書館に足を運んでみてはいかがでしょうか？

状況写真



タイトル「うれしいな」の写真が看板に



児玉教育長(左)と田口代表(右)



田口代表(右)と中央図書館の職員



「写真パネル展」の様子



漆原 宏さんの写真やプロフィール、言葉が貼ってあるパネル
1939年 東京生まれ
言葉の締めくくりは、「ぼくは、やっぱり図書館が大好き」なんです。



下関の中央図書館(右上)と長府図書館(右下)の写真が入ったファイル

